

昨日の午後から、今年度も3年生の模擬面接が始まりました。模擬面接申込書をどのような意識で記入しましたか。既にそこから差がありました。志願理由書のように熱心に書いてある生徒がいる反面、調べてもないのか、大きな枠が真つ白なまま提出している生徒もいました。一人の人間は全部つながっています。たとえ学校内の書類であっても、その一枚を一生懸命誠実に書くことと取り組むことが、信頼を得る第一歩ではないでしょうか。

面接で何を見てもらうのか

月刊『高校教育』という教員向けの雑誌があります。そこに、本年3月まで大阪大学教授であった現名誉教授 小野田正利氏が、『旧AO入試対策の「対策』と題して入試面接のことを書いていました。受験生側、高校側としては合格目指して練習をして本番に臨むわけですが、大学側からの視点に触れ、考えさせられるものがありました。

○10月号より

『生徒や高校側は「傾向と対策」を繰り返して面接試験に臨んでいきます。それでは「着飾った姿」が美しいかどうかになってしまい、本来の「素の姿」からは遠くなりすぎます。さらに予備校の持つ豊富なノウハウが加わってパターン化する傾向を高めている

ことに、他大学に勤務する友人たちは「うんざり」とためいきをつけていました。』

失礼のないように練習をして臨むのは大切だと思います。それが、合格するためなら何でもやるという儲け主義と変わらない発想になってしまったとき、本当の自分ではない何かを語ってしまう可能性も感じました。9月号にも、私たちは面接で「素の姿の学生」を見たいのに、(良かれと思つて高校側が用意した)「幾重もの晴れ着をまとつた姿」と、同様の言葉が書いてありました

正直に等身大の自分を丁寧に出せる、面接に対する考え方もそれぞれで唯一解はないと思いますが、相手に誤解なく伝えられるかどうかは大切なことだと改めて思います。自分の考えをしっかりと固めて準備をしていきましょう。



早目の準備

10月の声を聞き、就職も進学も具体的な手続きに入るところが多くなります。進路ガイドダンスなどでも繰り返し伝えてもらっていることに、「早目の準備」があります。×切の日に出席はいい、そう考

いると、もし何か予期せぬ事態が起きた場合に対処できません。受付開始初日に出すように準備を整えておけば、期間中に余裕をもって手続きできます。この心掛けは進路の時に限らず、仕事に就いてからも有効です。期限を守ることは、信用につながる大きな要素だからです。

オンラインの危険

出願に関して、今年度もweb出願の学校は数多くあります。そのweb出願で気をつけておきたいことがあります。

- ・数字や文字を二文字書き間違えたためにコンピュータが読めず、書類が不備になる可能性。
- ・送信したはずがうまく送れていない可能性。

このような事故は、紙ベースの書類を人が読み取る場合や、郵便書留で送付する場合は異なる懸念だと思えます。便利でスピーディーなオンラインですが、オンラインならではの注意事項を十分意識して臨みたいものです。

言葉

対話して相手を感じ取ることは沢山あります。見た目や姿、話す言葉や表情等様々なことから相手はその人を感じ取ります。高校生と対話したとき、そういう一つの要素に「語彙を思う」ことがあります。おいしい、すごい、魅力的、危ない、怪しい…、これ等全部「やばい」で表現してしまう人と豊かな言葉が使えぬ人。みなさん若い人同士で話すときと、面接等で年配者に話すとき、相手の受け止め方は違うのだと思います。特に「語彙」の使い方を意識するのいいと考えます。

長田弘さんという詩人がおられました。長田さんがNHKテレビ『視点・論点』で語ったことを収めた岩波新書『なつかしい時間』にこうあります。

言葉むなしければ、人はむなし。言葉というのは、心という財布に、自分が使える言葉をどれだけゆたかにもっているかということです。